

メルセデス・ベンツ新型Eクラス

Press Information

E 250 CGI ブルーエフィシエンシー アバンギャルド 輸入車初のエコカー減税対象車の認定を取得

2009年10月15日

メルセデス・ベンツ日本株式会社(以下 MBJ、社長:ハンス・テンペル、本社:東京都港区)は、10月6日に発表した新型Eクラス「E 250 CGI ブルーエフィシエンシー アバンギャルド」で、通常のカソリンエンジンを搭載した輸入車としては初めて「エコカー減税対象車」となる国土交通省の型式認定を取得いたしました。

「E 250 CGI ブルーエフィシエンシー アバンギャルド」に搭載されている1.8リッターカソリン直噴ターボエンジンは、燃費向上・CO2排出量削減に向けたメルセデスの最新環境対応コンセプト「ブルーエフィシエンシー」に基づき開発されています。先代モデルのE 250に搭載されていた2.5リッターV型6気筒エンジンに比べ大幅に小型軽量化を図ったこの新開発エンジンは、小排気量ながらも先代モデルと同等の出力と、最大トルク26%の増加を実現するとともに、燃費は最大約27%*の大幅な低減を実現しています。

この結果、「E 250 CGI ブルーエフィシエンシー アバンギャルド」は、「平成17年排出ガス基準75%低減レベル(☆☆☆☆)」および「平成22年燃費基準+20%」の両方を達成し、「環境対応車普及促進対策補助金(10万円、車齢13年超の経年車廃車をともなう場合は25万円)」の優遇とともに、通常のカソリンエンジンを搭載した輸入車として初めて「エコカー減税(重量税、取得税各50%の減税)」と「自動車グリーン税制(翌年度の自動車税約25%減税)」の優遇を受けることができます。

これにより、MBJが取り扱うメルセデス・ベンツ乗用車のうち、新車購入補助制度の対象車は19モデルとなりました。

MBJはクリーンディーゼル車やハイブリッド車などの環境対応車を日本市場にいち早く導入するなど環境への取り組みを積極的に進めています。また、メルセデス・ベンツ乗用車74モデルのうち36モデルで「平成17年排出ガス基準75%低減レベル(☆☆☆☆)」を、また23モデルで「同50%低減レベル(☆☆☆)」を達成し、輸入車ブランドとしては最も多くのモデルが低排出ガス車認定を受けています。